

# 応援してくださる皆さんへ

ハンドボール部の活動、中体連の活動にご協力いただきありがとうございます。

現在、東京都中体連ハンドボール部にはおよそ男子50チーム、女子40チームが加盟し、春の区部・多摩地区春季都大会、夏の東京都選手権大会、秋の東京都新人大会を始め、各ブロック大会や、冬の読売旗、春の全中、JOCの選抜チームの活動など、1年を通じて様々な大会を行ったり参加しています。

夏の関東大会を勝ち抜き全国大会での好成績を残すチームも多く、また、小学校からハンドボールを始める生徒も増えてきています。



これらの活動を支えているのは選手の日々の努力と保護者の方々をはじめ、応援してくださるたくさんの方々の力です。



選手である生徒は3年間、中学生として成長していく環境のひとつとして、中学校のハンドボール部の活動に、中学校の教員である顧問の指導の下、参加しています。

**大人の皆さんにはこの『中学校のハンドボール部の活動』という意味をよくご理解いただきたいと思います。**

## 【顧問とよく話し合しましょう】

保護者の皆さんそれぞれに教育や生活に関しての考え方があるように、監督である顧問にも、部活動やハンドボールに対する考え方や指導方針があります。部活動が中学校の活動である限り、残念ながら様々な保護者の方の考え方や希望をすべてかなえることはできません。また、各大会に関する情報の多くは顧問を通じて伝えられます。単に試合の結果だけでなく、活動の方針やハンドボールに対する考え方、また、学校生活との両立など日頃から顧問といろいろな話をしてみてください。顧問の先生の指導方針を尊重していただき、その考え方に寄り添ってご協力ください。

## 【レフェリーの判定を尊重しましょう】

どのスポーツでもジャッジに対して批判や苦情を言うことを良いこととは認めていません。勝ちたいと思っている2つのチームが安全で公平な試合を行うためにはレフェリーは絶対に必要です。残念ながら、時には間違った笛を吹くこともあります。時にはその間違いが勝敗に影響することもあると思います。しかし、レフェリーはコートサイドからではなく、もっとも近く、どちらかのチームを応援するのは全く違う見方で試合を見ています。レフェリーの判定を尊重してください。『審判を信頼すること』も選手には大事な体験なのです。

また、限られた資金と時間の中で、教員である顧問の集団で中学校の大会を運営するには経験の少ない審判も、より多くの試合をジャッジすることで成長していくことが必要なのです。

応援の方々の『フェアプレー』を尊重する態度が必要です。

## 【相手チームにも応援を】

中学生の部活動です。当然試合相手も中学生。お互いに未熟な部分はたくさんあるでしょう。そのどちらにも部活動を通じて成長してもらいたいのです。もしかしたら、その選手と高校や大学でチームメイトになるかもしれませんよ。そのためには相手チームにヤジや罵声を送るのではなく、思いやりのある声援を送ってもらいたいのです。100万回の説教よりも、その大人の姿から子供達はフェアプレーや思いやりの精神を学んでいくと思います。

### 【会場を大切にして下さい】

大会の会場はほとんどが中学校の校庭です。準備、片付け、清掃もすべて大会役員と会場校の顧問・生徒で行っています。必要な広さと設備があり、ある程度交通の便が良い学校はどうしても限られてしまい、同じ学校に続けてお願いすることが多くなっています。

また、公共の体育館でも、必要最低限の施設の一部を、中学校の部活動として優遇された金額で借りています。それも同じように条件のそろった会場は多くありません。

残念ながらプロ野球やJリーグのサッカーの観戦のようにサービスや設備の行き届いた会場を用意することはできません。

違法駐車やゴミ捨て、大声で騒いだり、壁や植え込みを壊したり、通行の妨害や立ち入り禁止区域・校舎内への入り込みなど、会場校や体育館に不必要な負担がかかる事のないようにしていきましょう。

交通手段や天候判断などは、各校の顧問の先生に問い合わせたり、中体連ハンドボール部の速報ブログや各施設のホームページを検索するなど、準備に忙しい会場校への直接の問い合わせは避けてください。

限られた会場を、これからも借り続けられるように大切にして下さい。



### 【勝って戒め、負けて励ませ】

試合に勝って喜び、負けて悔しがるのは当たり前のことです。しかし、それは選手自身が誰よりも感じています。それを認めた上で見守る大人に求められるのは、選手のその経験を次の試合に活かす支えです。勝ったときこそできなかったことを戒め、負けたときこそ努力を続ける励ましをしてください。

『練習は裏切らない』『継続は力なり』・・・様々な格言を体験できる機会はたくさんあると思います。そのことを伝えてあげてください。

### 【グッドプレー、フェアプレーは勝利よりも価値がある】

たとえ試合に勝ったとしてもそれが練習や日々の苦労の成果でなければ、あるいは審判の気付かない場面でのアンフェアなプレーの結果だとしたら、勝利にどれほどの価値があるでしょう。逆に負けた試合でも、何度も何度も練習してきたプレーができるようになったことや、反則の笛に素直に手を挙げたり、倒れた相手選手に手を差し伸べる気持ちのほうはずっと価値はあると思います。

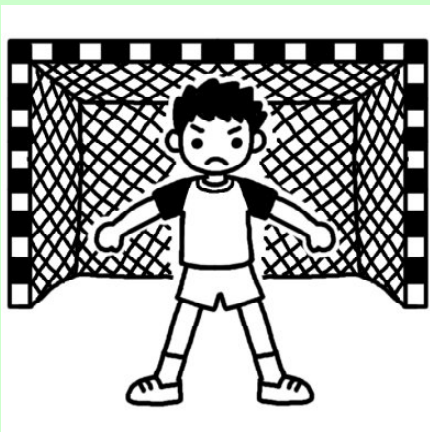
勝ち負けや得点にこだわるばかりでなく、グッドプレー、フェアプレーにより大きな拍手と声援を送ってください。

### 【ハンドボールにも「ノーサイド」を】

普通どんなスポーツの試合でも「試合終了」の合図は共通ですが、ラグビーに関してはなぜか「ノーサイド」という言葉で試合が終わりになります。

このノーサイドの意味は「敵味方ではなくなる」ということだそうです。ラグビーはイギリスが発祥のスポーツで「紳士的なスポーツ」として有名です。その為、体をぶつけ合う野蛮なスポーツではない！という表れから来ていようです。

ハンドボールにもこの考えは当てはまるのではないのでしょうか。どんな試合結果でも終了の笛とともに、相手チームと握手できるような応援をしてあげましょう。



中学校の部活動で勝つことは『目標』であって『目的』ではありません。勝つことを目標に、心身ともにつらい練習に耐えたり、続けることでようやく得られる結果に喜んだり、チームメイト、先輩後輩、選手と監督・コーチという深く、強い人間関係を経験していくことが目的なのです。

子供は大人の背中を見て学びます。特に応援に来てくださる皆さんの姿や態度は、中学校の部活動での教育の大きな一部なのです。